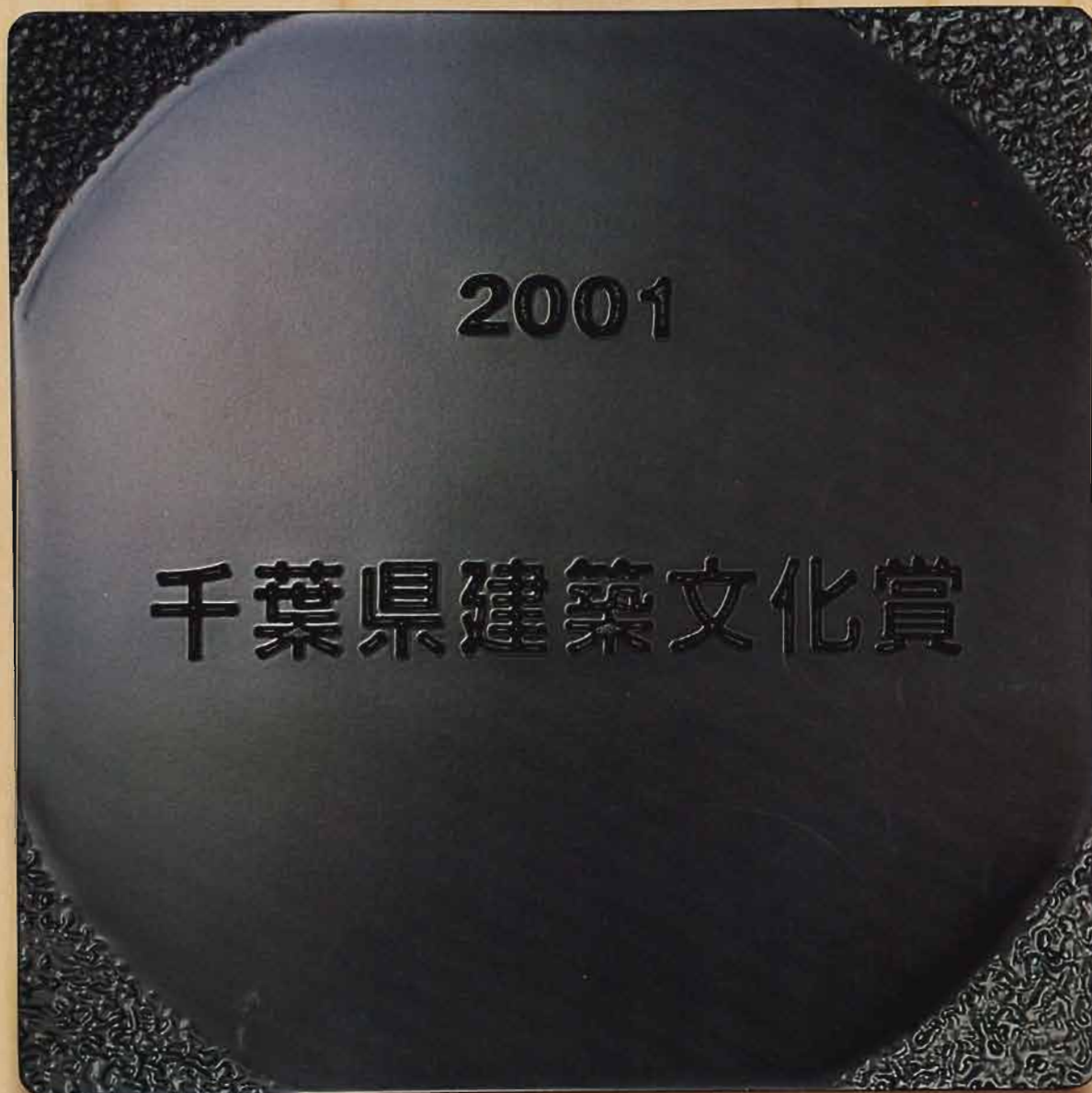


第8回
千葉県建築文化賞
表彰作品集



主催：千葉県 共催：(社)千葉県建築士会

後援：(社)千葉県建築士事務所協会 (社)千葉県建設業協会 (社)日本建築家協会・千葉
千葉県建築設計監理協会 (福)千葉県社会福祉協議会 (福)千葉県身体障害者福祉協会
協賛：千葉県住宅供給公社 (財)千葉県まちづくり公社 千葉県土地開発公社
都市基盤整備公団千葉地域支社 千葉県耐震判定協議会 (株)千葉県建築住宅センター
千葉県昇降機等検査協議会 京葉ガス(株) 千葉ガス(株) 大多喜ガス(株)

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

平成13年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞はすぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設いたしました。

第8回目となる今年度は88点に及ぶ多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞2点を決定いたしました。

受賞作品は、魅力的な周囲の景観と融合し、地域との関係も重視した小学校校舎、障害者や高齢者が安心して心豊かな生活ができるよう工夫された社会福祉施設、省エネルギー・省資源のシステムを採用し、長寿命を意識した住宅や事務所など、いずれも2001年の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係者の情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献することを期待しております。

21世紀は、地方が主体性を発揮し、県民一人ひとりが地域づくりの主役となる時代です。県としても、主体的な県政運営を行い、県民が誇りと自信を持ち、経済的にも文化的にも自立した「千葉主権」の確立を目指していきたくて考えております。それぞれの地域には個性と特色があります。それらが織りなす暮らしが「千葉らしさ」につながります。

この「千葉らしさ」を県民の皆様と一緒に、花咲かせていきたいと思っています。

結びに、選考委員をはじめとする関係者や応募された方々、後援及び協賛団体の皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成14年 3月

目次	千葉県建築文化賞について	… 1	選考経過と総評	… 2
	大多喜町立老川小学校	… 3	千葉市立海浜打瀬小学校	… 4
	身体障害者更生援護施設 ディアフレンズ美浜	… 5	高齢者生活支援ハウス ヴォーネン本埜	… 6
	エコビレッジ松戸	… 7	周郷建設新社屋	… 8
	熊木邸	… 9	応募（推薦）建築物一覧	… 10
	中崎邸	… 9	建築文化賞選考委員会	… 10

応募88点から8点入賞 (選考経過と総評)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第8回千葉県建築文化賞は6月の委員会で応募要領を定め、対象建築物を平成13年9月末まで2か月間、募集した。

これに対して、総数88点の応募をいただき、前回より25点の増加をみた。(部門別内訳は、下表のとおり。)

きびしい経済情勢にもかかわらず、関係者の熱意により、幅広く多様な作品が寄せられた。深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示して、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、各部門5点を選んだ。次いで11月後半の4日間をかけ、その15か所を現地訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は平成14年1月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえ再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞6点(部門ごとに2点)、建築文化奨励賞2点を表彰候補作品として決定した。

(3部門の対象)	(選考の過程)	応募点数	(1次選考) 現地調査	(授賞作品選定)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		55	5	2	1
高齢者・障害者等に配慮した建築物		17	5	2	0
環境に配慮した建築物		16	5	2	1
(合計)		88	15	6	2

景観に配慮した建築物

多くの応募作品に、建築物の質の向上と合わせて、敷地周辺の特性への対応や良好な街並み形成への配慮が認められた。

その中でも学校・保育園など、明日の世代を育む建築に質の高い作品が目立った。

「老川小学校」は自然豊かな山間部、「海浜打瀬小学校」は海岸埋立地のニュータウンと対照的な立地だが、どちらも周囲の景観と見事に調和し、地域に開放された学校のあり方をモデル的に示している点が高く評価され、建築文化賞となった。

奨励賞の「熊木邸」は間口の狭い変形敷地を使いながら、和と洋を調和させた端正なたたずまいが街並みの景観に貢献している点が評価された。

高齢者・障害者等に配慮した建築物

「ディアフレンズ美浜」は市街地において障害者がいきいき生活できる空間、住まいの集合体を、優れたデザインによって実現している点が印象的である。

「ヴォーネン本塾」は、生活支援ハウスの県内第1号として、居住者が明るく楽しい共同生活を送れるようにとの配慮が共感を呼んだ。

その結果、この2点が建築文化賞とされた。

なお、「浦安市運動公園屋内水泳プール」及び「安藤邸」は、使いやすさの配慮が認められたが、惜しくも選外となった。

奨励賞は該当なしとされたが、誰でもが使いやすい建築にしようとの意識が、次第に一般化してきているように感じられた。

環境に配慮した建築物

この部門には、本年度も環境への多様な配慮を示す作品が寄せられた。「エコビレッジ松戸」は、新開発の設備システム、長寿命の建築、地域生態系への配慮などによって質の高い環境共生型の集合住宅を実現している点が高く評価された。「周郷建設新社屋」は省エネルギー、省資源化とともに、多様な緑地によって道行く人々の快適性にも配慮した点が支持された。その結果、この2点が建築文化賞に選ばれた。

奨励賞の「中崎邸」は、太陽エネルギーの有効利用と自然素材の採用への思いが共感を得た。

数々の賞を受けている「セミテックワールド」は、デザインの質の高さが評価されたが、環境の部での授賞は見送りとなった。

2

選考の基準

- 千葉県内において、平成8年4月1日から平成13年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰の趣旨に適合しているもの。
- 優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺的环境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②安全性・快適性・利便性に優れ、高齢者や障害者等がいきいきと豊かな生活が送れるように十分な配慮がなされ、社会活動への参加が容易に出来るような環境整備がなされているもの。
 - ③エネルギーの省力化や資源の高度な有効利用を図ったり、地域生態環境と親和させるために、自然を取り入れた建築の工夫がなされるなど、人と環境に対して安全安心で健康快適な室内環境の性能について配慮がなされているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、近隣との紛争が生じていないもの。



建築文化賞

景観に配慮した建築物

自然・地域文化と共生する学び舎

おいかわ 大多喜町立老川小学校

建築主：大多喜町

設計：(株)榎本建築設計事務所

施工：山本建設株式会社

所在地：夷隅郡大多喜町小田代524-1



多目的ホールとクラスター棟

養老溪谷の豊かな自然に恵まれた地域に建設された大多喜町立老川小学校は、分校の統合を行っても現在の児童数が72名という小さな小学校であるが、公民館のような地域の拠点としても位置付けられた建物である。

老川小学校を訪れて、まず目に飛び込んでくるのは、ひとつひとつの教室の「家」のようなスケールだ。基本的な一つのクラスターは、二つの普通教室とワークルーム、畳コーナーとトイレからなり、一クラスあたりの人数の増減を考慮して少人数クラスでも不都合のないような木目細かなこの地域の状況への配慮が感じられる。小さなボリュームに分割された教室、図書室、多目的ホールなどの建築に取り囲まれ小さな集落のようにも見える中庭は、屋外劇場としてもデザインされており、積極的に児童の生活に関わるように計画されている。地元産の杉材を使用し、地域の施設としても開放的に計画された多目的ホールとともに、学校と地域の交流のスペースに広がりを持たせている。

全体に複雑な構成であるが、それが人間の行為と密接に結びついた豊かな空間として成立しており、その複雑な構成を破綻なくまとめあげているところに、設計者の熱意と力量を感じる。

この地域と密着した小学校のあり方はプログラムの点から多めに評価されるべきであるし、多様な構成の中に小



ふれあいコートの屋外劇場

教室の木組み

さな社会を内包した老川小学校は建築としてそのプログラムにさらなる可能性を与えている。少子化、高齢化、過疎化に悩む地域における公共施設のあり方に一石を投じた建築といえるのではないだろうか。(篠原聡子)





建築主：千葉市
 設計：(株)桑田建築設計事務所
 施工：新日本建設株式会社
 松栄建設株式会社 [共同企業体]

所在地：千葉市美浜区打瀬3丁目地内

街並みに調和したモダンな外観

かいひん うたせ

千葉市立海浜打瀬小学校



街のアイストップとなるガラスの三角柱

幕張新都心は未来型の複合機能都市といわれる。幕張メッセや高層のホテル・オフィスビルが林立するが、ここは1万人余が暮らす街(幕張ベイタウン)でもある。海浜打瀬小学校は、この地域の生徒増に対応するため打瀬小学校の兄弟校として建設され、平成13年春に開校した。両校とも地域に開かれ、子どもたちや住民にとって魅力的な生活学習空間として高い評価を得ている。

管理諸室や学級室はほぼ中央にあり、楕円形の中庭を囲んでいる。その三方を特別教室棟や屋内運動場棟が包み込んだ配置になっている。それらを広く明るい通路で連絡づけ、魅力的な回遊動線とし、ふれあい・にぎわいの場を形成している。

教室棟はオープンになっており複数学年での学習もできる柔軟性がある。一方では、多人数教育の画一化を打破するための仕掛けが随所に試みられ、各種の活動を促すように子どもたちを誘い込む。

1階隅の図書室は、床を一段下げて落ち着いた雰囲気を作り出し、その隣にはコンピューター室を配置した。こうして多様な情報媒体を総合的に活用できるメディアセンターとしての機能が高められた。

各室は屋外と連続させて緑をとり込み、木材を多用している。自然の採光通風によって快適さを生み出し、環境との共生にも十分配慮された。

「子どもたちを主役とした、さまざまなシーンがあふれ



上空から望む第5のファサード



さまざまなシーンがあふれる中庭

る学校」を目指して行政・地域・学校・設計者が一丸となって取り組んだ成果といえよう。

幕張新都心に相応しい先進的な教育環境として、地域住民の熱い期待が寄せられている。(明智克夫)



高齢者・障害者等に配慮した建築物

市街地でいきいき生活できる
身体障害者更生援護施設

ディアフレンズ^{みはま}美浜

建築主：社会福祉法人 春陽会
設計：(株)榎本建築設計事務所
施工：矢作建設工業株式会社東京支店

所在地：千葉市美浜区磯辺2-21-1



木質で仕上げた安らぎの広場

ディアフレンズ美浜は、稲毛海浜公園や住宅団地、学校などにほど近い街なか平成13年4月に開設された福祉施設である。障害のある子供の将来を案じてその進路の開拓に向け様々な活動を続けている「千葉市肢体不自由児者父母の会」が設立母体となった。「親亡き後も安心して障害者の生活を託せる施設を」との願いから発想され、地域にしっかりと根つきそうな簡素だが凛とした気品を漂わせる魅力的な建築である。

ウッドデッキと緑の中庭を囲むように、1階には食堂やデイルームが配置され、2階には居室が配置されている。また、通りに面したところには地域で働きながら生活する障害者のための福祉ホームが配置されている。さらに、1000人規模の集会までできる大きな地域交流スペースも備えている。

建築デザインとしては、内外装ともに木の素材を巧みに使い、外に対しては柔らかな表情をみせつつも、毅然とした存在感を与え、内部には、ごく普通の生活をするのにふさわしい家庭的な雰囲気を醸し出している。

何か特別なことをしようという発想ではなく、障害があってもごく普通の存在として、ごく普通に生活できる環境をととのえようという強い意志のもとに生まれた、まさにやさしい空間である。



正面玄関アプローチ (撮影 澤田勝良)

明るいデイルーム



ここを拠点に地域の人々が集い、また、ここから多くの人々が地域に帰っていくことがごく自然に期待できる空間が創造されたことを高く評価したい。こうした空間が、地域にごくあたり前に存在する時代が到来したとするならば、喜ばしいかぎりである。 (園田眞理子)